

# 我こそは日本一！飼料用米多収コンテスト受賞者決定

## ～当社取扱肥料使用の山田様が日本農業新聞賞を受賞

当紙477号（2016年5月18日発刊号）にてご紹介した飼料用米多収コンテストの受賞者が決定し、去る3月17日に東京大学の弥生講堂にて飼料用米に関連するシンポジウム並びに授賞式が行われた。全国より448名の応募の中で栄えある農林水産大臣賞を受賞されたのは、宮城県加美郡の有限会社平柳カンントリー農産様で単位収量の部と地域の平均反収からの増収の部の両部門でのダブル受賞となった。この飼料用米多収コンテストの審査要綱はコストや手間をかけて反収が高い成績を収めた経営体に授与するためのものではなく、飼料用米の生産コスト低減目標の

達成に向けて飼料用米生産農家の技術水準の向上を推進するため、生産技術の面から先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介するものと規定しており栽培技術全般のレベルを競うコンテストとなっている。

その中で、平均反収からの増収部門で見事、日本農業新聞賞を受賞された滋賀県東近江市に在住の山田奈々様は、当社特約店である園田商事株式会社（滋賀県）の得意先様だ。当社が販売しているエムシー・ファティコム（株）製造の水稲専用元肥一発型肥料の30-7-7 2号を基本設計として、最高分けつ期に硫酸による追肥により無効分けつを防ぎ29cmもの長い穂を確保。出穂後の台風襲来と天候不順にも負けずに823kgの反収を獲られ、地域の平均反収からは272kg増と133%もの増収率を達成された。

飼料用米を本格的に作付開始したのは3年前。当社とのお付き合いは専用品種に認定されている多収系品種の北陸193号を斡旋したこと、当地に合う肥料を含めた栽培管理方法を模索しながら園田商事（株）のスタッフの皆様と複数の飼料用米契約生産者と共に田んぼで現地検討会を開催したのがきっかけで、山田様はその中の契約栽培者のおひとり。3年前に初めて北陸193号が栽培されている山田様の田んぼにお邪魔したときに、直感で「この方、作るのが上手だ」と瞬時に感じた。何故ならばまず畦畔がしっかり除草されている、田んぼの中には雑草など見受けられない、田んぼは均平、作土層が深く耕やされていて、ひざ下までズブズブと滑り込んでいく田んぼに仕上げられていたからだ。また、炎天下でもあるのにも関わらず田んぼの畦で汗を拭きながらアドバイスを真剣に聞き入れて頂き、ポイントを復唱され会得しようとする熱心さが伝わってきたため、この方は間違いなく交付金を

（次ページへ続く）



授賞式に同席されたご主人様（左）とお父様

(前ページより続く)

満額取れると感じていた。満額の交付金どころか山田様は全国5本の指に入るレジェンドとして後世に語り継がれるような功績を収められたわけだ。山田様は昨年工夫して3年前よりも北陸193号の多収に努められ、近畿地方で一番の多収を収められたことがきっかけとなり、農政事務所よりコンテスト公募を勧められたのが日本農業新聞賞に結び付いた。今年はレンゲを利用し栽植密度を減らして更なるコスト減と省力にチャレンジされる予定。

最後に、農水省のHPを見て自分の目に山田様の名前が目にとまった時の驚きと感動、よもや自分が田んぼに入ってアドバイスさせて頂いた方が名誉な受賞されたという事は現場真実に尽きる限りである。山田様の受賞、誠におめでとうございます！

---

## 第15回トモエときわ研修会開催 in札幌

去る2月15日～16日、札幌ガーデンパレスホテルにおいて第15回トモエときわ研修会が盛大に開催された。トモエときわ研修会は2004年に第1回が開催されて以来、北海道トモエ肥料販売協同組合(以下北肥協)のメンバーが一同に会し、一年間のメンバー各社の販売・試験活動の発表・質疑応答の場となっている。本会の特徴として、メンバー各社の若手が研修会準備委員となり企画、立案、運営、司会進行等が進められ、事務局はあくまでもサポート役として研修会を作り上げる。各社準備委員は研修会準備委員会を実施し、事前準備を行うことにより北肥協の一体感が生まれている。

今回はメンバー各社総勢48名が参加し、2日間に渡り盛んに議論が行われた。第15回の特徴は試験発表に重点を置いたこれまでのプログラムに加え、各社営業担当者の営業体験記やトモエときわ品の各社販売方法の発表等を組み込みより実践に活用できる内容とした。

第一日目は、北海道トモエ肥料販売協同組合 武蔵理事長(武蔵商事㈱代表取締役社長)のご挨拶により開幕。エムシー・ファーティコム㈱ 山森社長より開会の挨拶があった。発表会本編試験成果発表では小麦、牧草、馬鈴薯について発表が行われた。小麦では「トモエ化成による品質向上と収量増」、牧草(放牧)では「トモエ化成による生育と、牧草の食い込み状況、乳量の変化を比較」、馬鈴薯では「トモエ化成による、品質向上と収量増」の試験結果が発表された。発表3試験ともトモエ化成による優位性が確認でき、今後の販売に活用できる試験内容であった。続いて、営業体験発表ではベテラン担当者による体験談が発表された。販売に繋げるべく工夫した施策や心構えが惜しげなく発表され、今後の販売活動のヒントになったと思う。

1日目最後に、液肥の販売として、エムシー・ファーティコム㈱ 庄司技師より商品説明があり、各社の販売方法が発表された。液肥の詳細な商品説明後、各社から作物別の販売例が発表され、水稻では「サンソーネによる育苗の促進」、畑作では「曇天多雨による生育延滞への活用」が話題に上った。販売現場からの試行錯誤による販売方法の発表は貴重な情報となった。第一日目終了後の懇親会場では、ベストパフォーマンス賞(研修会参加者全員から投票)が発表された。

2日目は、エムシー・ファーティコム 太田グループ長より演題「土壌分析の項目とその見方」としてご講義を頂いた。実際の土壌分析結果を基に、各社の代表者が土壌についての解析を行った。太田グループ長による各回答への解説は土壌分析のいっそうの活用方法を示されたと思う。続いて北肥協全体の活動である「ときわ拡販活動(ときわ拡販委員会)」について発表があり、ときわ化研代表取締役社長 渡辺様、北肥協拡販推進部長(株愛農代表取締役社長) 照井様よりご挨拶があった。

今回も盛りだくさんとなった研修会であったが、様々な観点から拡販へ向けてのメンバー各社の意気込みが伝わってくる研修会であったのではないと思う。紙面をお借りしまして、本会の準備にご協力をいただきましたメンバー各社の皆様、そして準備委員の皆様へ御礼申し上げます。

---

桜の開花宣言後に冬の寒さが戻り、暖かい日と肌寒い日を繰り返して体調を崩しやすいですね。東京の桜は四分咲きといったところで今週末のお花見は少し早そうですが、来週には見頃を迎えそうです。ひと段落ついてゆっくりお花見ができるかもしれません。春の嵐が吹き荒れない事を願います。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>